

一般C日程入学試験問題

国語

注意事項

1. 願書提出時に、この試験科目の受験を申請していない人は受験できません。
2. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
3. 解答は解答用紙の解答欄にマークしなさい。
4. 解答用紙にある「マーク記入例」と「記入上の注意」をよく読みなさい。
5. この問題冊子は、十三ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

次の方角を読んで、後の問いに答えないさい。

私たち日本人は、いまを生き抜くちからが希薄^アになっている。どうすれば、Iの重さをとりもどすことができるのだろうか。

そのことをずっと考えつづけてきました。重苦しいテーマではありませんが、いま私たちは、そこから目を逸らすことのできない地点までさしかかってしまったのです。

いつぞや、東大の鈴木博之教授が総合雑誌にお書きになっていた「建築は渴く」という文章を読んで、なるほど、思っただけがありました。ふだん見慣れない言葉に出あったのです。

それは、乾式工法と湿式工法、という言葉でした。戦後の日本の建築工学の流れは、簡単にいえば〈湿式工法〉から〈乾式工法〉への大転換であった、という説明でした。その文章に、なにか目から鱗^Aが落ちたような気がしたのです。

ふり返つてみますと、むかしは家を建てている前を通りかかりますと、道路に大きな鉄板を敷き、そこにセメント袋からセメントの粉末を出し、砂利などを入れ、さらにバケツで何杯も何杯も水を注いで、それを男たちがスコップでこねあわせて、コンクリートをつくっている現場によく出くわしたものです。むかしは一軒の家を建てるにもずいぶんたくさん水が使われていました。

コンクリートだけではありません。壁土を練る、漆喰^イをつくる、その他、いろんな場所では多量の水が使われていたのです。

このたくさん水を使う工事の方法を〈湿式工法〉というのでしよう。やがて技術の進歩とともに、少しずつ新しい流れが出てきました。それは〈乾式工法〉という、水を使わない工事の方法です。コンクリートは工場で作っておく。壁土は使わずにベニヤ板をはり、その上にビニールの壁紙をはる。

壁や屋根は組み立てる。アルミサッシ、ガラス、プラスチック、人工素材などをポルトでしめたり、接着剤でつけたりすることによって、いま、ほとんど一滴の水も使わずに、一軒の家が建つような時代になりました。このことを〈乾式工法〉というのです。

〈湿式工法〉から〈乾式工法〉への転換。

それは建築の現場だけのことでしょうか。私には、戦後の六十年ほどのあいだに、社会のすべての分野で、〈湿式〉から〈乾式〉への大転換が行われたような気がしてなりません。

たとえば、むかし私たちが中学生のころには、情熱のある先生が泣きながら生徒を叱る、などという光景も見られたものでした。いまそんなシーンは、テレビドラマのなかで見られるだけです。

コンピュータを使う、あるいは統計や数字を使うことで、教育の現場まで情報が大きな位置を占めている。〈湿式教育〉から〈乾式教育〉への転換が行われたと考えていい。

Ⅱの現場でもそうです。むかしの医師はいつも^aチヨウシンキをぶらさげ、背中をさわり、脈をとり、まぶたを裏返しにし、口をあけさせて舌を眺め、体の各部に触れたり、さわったり、そのほか、病気の具合だけでなく家庭の事情や、いろんな問題にまで質問をして、その上で診断なり投薬の処方をしたものでした。

いまでは、診察は機械による検査の数字を見るのがまず第一です。Ⅱもまた、〈湿式Ⅱ〉から〈乾式Ⅱ〉へ移り変わってきたといえるでしょう。

雇用などもそうです。かつての、いったん採用した人間を定年までやとい、退職後も何らかの保障をしたり、途中で亡くなった場合、遺族の面倒を見るといった生涯雇用は、いわば〈湿式雇用〉といえるかもしれません。

最近是人材派遣の会社から人を採用し、景気の変動によって簡単にリストラする、つまり、〈乾式雇用〉が流行です。しかし、〈湿式〉から〈乾式〉への転換は、ある意味でやむを得ない時代の流れでもありました。

戦前、私たちは湿度の多いじめじめべたべたした人間関係によって、ずいぶんつらい思いをしてきました。

家族のために身売りする農村の娘たちや、家の借金や弟の学資を稼ぐために^bボウセキ工場へ働きに出、そこで病いを得て倒れてしまう〈女工哀史〉などという物語も、そのようなじめじめした家族制度、封建的な^cシユジユウ関係、湿度過剰な社会から生まれてきたものだったといえるでしょう。

敗戦後、私たちはそのような過去に別れを告げ、〈古い上着よ、さようなら〉という歌の文句のように、ひたむきに新しい乾いた社会をめざしました。

触れば手にカビが生えそうな湿った人間関係や家族制度から離れ、乾いた明るい社会をひたすらめざして走りつづけてきたのです。そのこと自体はまちがっていませんでした。

しかし、ものごとには中庸^Bということが大事です。仏教では「我ありて、彼あり」といいます。深い悲しみを知る人だけが、腹の底から III ことができるのではないか。絶望の重さ暗さのなかで呻吟^Cした人が、一条の光に希望と光明を見いだすことができると思うのです。

湿った社会構造から乾いた社会をめざす流れは、私たちの生活環境を一変させました。ユーモアと笑いは、乾いたメデイアです。それは湿潤で陰惨^ウな社会に爽やかな風を送りこみ、気持ちのいい、風通しのいい人間関係をつくるために大きな力から発揮します。

戦後は、明るさ、笑い、ユーモア、そういった知性の働きを高く評価する一方で、悲しむ、歎^{なげ}く、感^{あは}れ、絶望する、泣く、などという IV は封建的で、古い遺風として軽蔑され、排除されてきたといっているでしょう。

本来、車の両輪のように、両方あつて成り立つ人間社会が、片方の車輪をはずして坂道を疾走してきたような印象があります。

乾式社会のなかで、そこに暮らす私たちのところが、しだいしだいにカラカラに乾燥していったとしても、何のふしぎもありません。

(中略)

水を注ぐことによって潤いとみずみずしい I を甦らせ、そして、I の重さを回復する。このことによってしか年間三万数千人という自殺大国から抜け出す道は、なさそうです。

では、その水にあたるものは一体、なんでしょうか。

それは人間の「情」というものであり、また、「悲」という感覚ではないか、と私はひそかに思ってきました。「情」にしても、「悲」にしても、戦後はほとんど顧みられることのなかった感情です。どこか前近代的で、本能的で、古風な感じがする。「人情」などという言葉は、前世紀の遺物のようなあつかいさえうけています。

しかし、私は思うのです。いまこそ V のもうひとつの大きなそのちからを、あらためて見つめなおす必要があるの

ではないか。

古くさいことを言っていると笑われることを承知の上で、このことを考えてみたいと思うのです。

(五木寛之『いまを生きるちから』による。ただし、出題に際して、字句や表記の改変、段落の変更・省略等を施した箇所がある。)

問一 傍線部ア～ウの漢字の読みとしてもっとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(解答番号 ア|| 、イ|| 、ウ||)

ア	希薄	[1]	きうす	[2]	けはく	[3]	きはく	[4]	けうす	[5]	きかす
イ	漆喰	[1]	しつかい	[2]	しつくい	[3]	しつこう	[4]	しつくい	[5]	しつはみ
ウ	陰惨	[1]	いんしつ	[2]	いんはん	[3]	いんまい	[4]	いんさん	[5]	いんけん

問二 傍線部 a～c の片仮名の太字箇所を用いる漢字としてもっとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(解答番号 a|| 、b|| 、c||)

a	チヨウシンキ	[1]	超	[2]	調	[3]	聴	[4]	長	[5]	帳
b	ボウセキ	[1]	関	[2]	積	[3]	籍	[4]	績	[5]	惜
c	シユジュウ	[1]	従	[2]	柔	[3]	猷	[4]	住	[5]	重

問三

I く V を埋めるのにもっとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(解答番号 I || 7、 II || 8、 III || 9、 IV || 10、 V || 11)

- | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|----|-----|-----|
| I | [1] | 自然 | [2] | からだ | [3] | いのち | [4] | 環境 | [5] | 精神力 |
| II | [1] | 教育 | [2] | 情報 | [3] | 雇用 | [4] | 医療 | [5] | 医師 |
| III | [1] | 悲しむ | [2] | うめく | [3] | 泣く | [4] | 笑う | [5] | 吠える |
| IV | [1] | 理性 | [2] | 知識 | [3] | 感覚 | [4] | 感動 | [5] | 感情 |
| V | [1] | 本能 | [2] | 感覚 | [3] | 人間感情 | [4] | 性格 | [5] | 意志 |

問四

二重傍線部 A く C の意味としてもっとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(解答番号 A || 12、 B || 13、 C || 14)

A 目から鱗が落ちた

- [1] 美しいものを見て感動する
- [2] 目の表情が美しい
- [3] 急に物事の真実が見えてくる
- [4] 視線をごまかして気付かれないようにする
- [5] 思いがけないことに慌てる

B 中庸

- [1] ものごとの中心
- [2] 衰えたものが再び盛んになること

- [3] 中が空っぽなこと
- [4] 中心となつて戦うこと
- [5] 過不足がなく調和がとれていること

C
呻吟

- [1] くしゃみをする事
- [2] 大きな咳をすること
- [3] 思いつきり声を出すこと
- [4] 猿が鳴くこと
- [5] 苦しみうめくこと

問五

本文の内容と合致しないものとしてもつとも適切なものを、解答群の中から一つ選びなさい。

(解答番号

15

)

- [1] 明るさ、笑い、ユーモアは、戦後の日本において、風通しのいい人間関係をつくるために、大きな力を発揮した。
- [2] 戦後六十年間で、〈湿式工法〉から〈乾式工法〉への転換を、社会のすべての分野で行ってきたといえる。
- [3] 戦争に敗れた私たちは、それまでのじめじめした湿度の高い人間関係にきつぱりと別れを告げ、新しい乾いた社会の建設をめざした。
- [4] 乾式社会の中で、そこに暮らす私たちのところが、少しずつではあるが確実に湿っていても何のふしぎもないといえる。

[5] 戦後ほとんど顧みなくなってしまった〈情〉や〈悲〉がもつ大きな力を私たちはあらためて見つめなおす必要があるのではないか。

問六 五木寛之の作品を、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号 16)

[1] 阿修羅のごとく [2] 1 Q 8 4 [3] 竜馬がゆく [4] 蒼ざめた馬を見よ [5] 受け月

問七 ことわざ・慣用句の空欄 [1] [5] を埋めるのにもっとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ

つ選びなさい。同じものを繰り返し用いてもよい。

(解答番号 ① || 17、② || 18、③ || 19、④ || 20、⑤ || 21)

- ① 捕らぬ [1] の皮算用
- ② [2] の威を借る狐
- ③ 立つ [3] あとを濁さず
- ④ [4] に烏帽子
- ⑤ [5] に論語

[1] 虎 [2] 猿 [3] 鳥 [4] 狸 [5] 犬

問八

次の同音異義語の組み合わせでもっとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(解答番号

あ ||

22、

い ||

23)

あ シジ

① シジにわたって話す。

② 計画をシジする。

③ 彼の政党をシジする。

④ 先生にシジする。

[1] ① 指示

② 支持

③ 私事

④ 師事

[2] ① 私事

② 指示

③ 支持

④ 師事

[3] ① 私事

② 支持

③ 師事

④ 指示

[4] ① 師事

② 私事

③ 支持

④ 指示

い コウエン

① 新劇の **コウエン** を見に行く。

② 国際問題の **コウエン** 会

③ **コウエン** な理想に燃える。

④ 野球チームの **コウエン** 会

⑤ 難役を **コウエン** する。

[1] ① 講演

② 公園

③ 後援

④ 好演

⑤ 高遠

[2] ① 公演

② 講演

③ 高遠

④ 後援

⑤ 好演

[3] ① 公演

② 公苑

③ 後援

④ 講演

⑤ 口演

[4] ① 講演

② 公演

③ 高遠

④ 後援

⑤ 好演

二
一
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、京に有りける木伐人共数た、北山に行きたりけるに、道を踏み違へて、何方へ行くべしとも思えざりければ、四人許山の中に居て歎きける程に、山奥の方より人数た来ければ、怪しく、「何者の来たるにか有らむ」と思ひける程に、尼君共の四五人許、いみじく舞ひかなでて出で来たりければ、木伐人共此れを見て恐ぢ怖れて、「此の尼共の此く舞ひかなでて来たるは、定めてよも人には非じ、天狗にや有らむ、亦鬼神にや有らむ」となむ思ひて見居たるに、此の舞ふ尼共、此の木伐人共を見付けて、只寄りに寄り来たれば、木伐人共、いみじく怖しとは思ひながら、尼共の寄り来たるに、「此は何なる尼君達の此くは舞ひかなでて、深き山の奥よりは出で給ひたるぞ」と問ひければ、尼共の云はく、「己れ等が此く舞ひかなでて来ては、其こ達定めて恐れ思ふらむ。但し我れ等は其こに有る尼共なり。花を摘みて仏に奉らむと思ひて、ともなひて入りたりつるが、道を踏み違へて、出づべき様も思えで有りつる程に、茸の有りつるを見付けて、物の欲しきままに、『此れを取りて食ひたらむ、酔ひやせむずらむ』とは思ひながら、『餓えて死なむよりは、去来此れ取りて食はむ』と思ひて、其れを取りて焼きて食ひつるに、いみじく甘かりつれば、『賢き事なり』と思ひて食ひつるより、只此く心ならず舞はるるなり。心にも糸怪しき事かなと思へども、糸怪しくなむ」と云ふに、木伐人共此れを聞きて、奇異しく思ふ事限無し。

然て、木伐人共もいみじく物の欲しかりければ、尼共食ひ残して取りて多く持ちける其の茸を、「死なむよりは、去来此の茸乞ひて食はむ」と思ひて、乞ひて食ひける後より、亦木伐人共も心ならず舞はれけり。然れば、尼共も木伐人共も、互に舞ひつづけてわらひける。然て、暫く有りければ、酔の悟めたるが如くして、道も思えで各返りにけり。其れより後、此の茸をば舞茸と云ふなりけり。

此れを思ふに、極めて怪しき事なり。近來も其の舞茸有れども、此れを食ふ人必ず舞はず。此れ極めて不審しき事なりとなむ、語り伝へたるとや。

〔「今昔物語集」による。ただし、字句や表記の改変・削除を施した箇所がある。〕

問一 波線部 a～d の文法的説明としてもつとも適切なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。同じものを繰り返し用いてもよい。

(解答番号 a || 、 b || 、 c || 、 d ||)

- [1] 断定の助動詞 [2] 副助詞 [3] 自発の助動詞
[4] 完了の助動詞 [5] 尊敬の助動詞

問二 破線部①～③の活用形としてもつとも適切なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。同じものを繰り返して用いてもよい。

(解答番号 ① || 、 ㊦ || 、 ㊧ || 、 ㊨ ||)

- [1] 未然形 [2] 連用形 [3] 終止形 [4] 連体形 [5] 已然形 [6] 命令形

問三 傍線部①～③の語句の解釈としてもつとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(解答番号 ① || 、 ② || 、 ③ ||)

① 定めて

- [1] きつと [2] よく見ると [3] 一般に
[4] 前世からの運命で [5] じっくり考えると

② 奇異しく

- [1] 驚いたことだと [2] さもしろいことだと [3] 興ざめなことだと

問四

傍線部A・Bの解釈としてもっとも適切なものを、解答群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(解答番号

A ||

35

、 B ||

36

)

- [4] 考えの浅いことだと
- [5] 歎なげかわしいことだと

③ 然れば

- [1] ところで
- [2] そういうわけで
- [3] そもそも
- [4] そうだとすると
- [5] 思ったとおりなので

A 何方へ行くべしとも思えざりければ

- [1] どこへ行こうとしているのか考えられなくなったので
- [2] どの方角へ行けばよいのか忘れてしまったので
- [3] どこへ行こうとしているのか忘れてしまったので
- [4] どんな方法で行けばよいのか分からなかったため
- [5] どの方角へ行けばよいのか分からなかったため

B 此れを取りて食ひたらむ、酔ひやせむずらむ

- [1] これを取って食べたならば、中毒してしまうだろうか。
- [2] これを取って食べたならば、中毒しないことはないだろう。
- [3] これを取って食べても、中毒するようなことはないだろう。
- [4] これを取って食べたならば、中毒して痩せてしまうだろうか。
- [5] これを取って食べても、中毒して痩せることはないだろう。

問五 本文の内容に合致するものとして、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号

37

)

- [1] 木こりたちは、中毒する方が餓死するよりはましだと考えて、キノコを食べた。
- [2] 木こりたちは、尼たちに、飢えて死ぬよりキノコを食べた方が良いと勧めて食べさせた。
- [3] 尼たちや木こりたちは、このキノコが舞茸という名前であることを知っていた。
- [4] 木こりたちは、舞っている尼たちに興味を感じたので、近づいて話しかけた。
- [5] この舞茸は今でも、それを食べるとみな尼たちのようになる。

問六 『今昔物語集』は、平安時代末期に成立したとみられる説話集であるが、平安時代に書かれた作品の組み合わせで

もつとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号

38

)

- [1] 和泉式部日記―枕草子―徒然草―雨月物語―奥の細道
- [2] 日本書紀―更級日記―十六夜日記―和泉式部日記―雨月物語
- [3] 枕草子―十六夜日記―伊勢物語―竹取物語―更級日記
- [4] 和泉式部日記―枕草子―伊勢物語―更級日記―竹取物語
- [5] 更級日記―十六夜日記―和泉式部日記―奥の細道―枕草子

問七 平安時代に書かれた歴史物語として、もつとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号

39

)

[1] 大鏡

[2] 義経記

[3] 増鏡

[4] 大和物語

[5] 平家物語